



# SIOS Report

Vol.30

2021年12月期上半期

2021年1月1日 ▶  
2021年6月30日

皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

また、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、2021年12月期上半期(2021年1月1日～2021年6月30日)の「SIOS

Report Vol.30」を皆さまにお届けし、当上半期の業績のご報告とともに、今後の見通し等につきましてご説明申し上げます。



代表取締役社長 **喜多 伸夫**

## ◆トップインタビュー

Q

**2021年12月期上半期の業績について  
お聞かせください。**

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大の影響により世界経済は厳しい状況が続き、日本経済においても先行き不透明感が強い状況です。一方、当社グループを取り巻く事業環境においては、お客様におけるリモートワーク環境の整備、クラウド環境への移行など、デジタルトランスフォーメーション(DX)への積極的な投資が継続しております。

その中でオープンシステム基盤事業においては、Red Hat, Inc.関連商品が好調な増収、主力自社製品の「LifeKeeper」が順調な増収でした。セグメント利

## 🔗 トップインタビュー

益は、好調な増収となった売上高が要因となり増益でした。

アプリケーション事業では、MFP（複合機）向けソフトウェア製品は出荷本数の増加と、前期までにサブスクリプション方式で契約した分が今期の売上に貢献し、好調な増収となりました。一方、金融機関向けシステム開発・構築支援は個人向け取引関連システムの開発など一部好調でしたがトータルでは減収となりました。また前期において放送局向けWebサービス事業および社会公共アウトソーシングサービス事業を他社に移転したことも減収要因となりました。利益面ではMFP向けソフトウェア製品、「Gluegentシリーズ」等の自社製品の販売が好調に推移し、増益となりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、同期間では過去最高の売上高を達成することができました。また営業利益と経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益はいずれも増益でした。当社グ

### ■ 財務ハイライト

(百万円)	2020年 12月期 上半期	2021年 12月期 上半期	前年同期比 増減率
売上高	7,276	<b>8,079</b>	+11.0%
売上総利益	2,178	<b>2,486</b>	+14.1%
営業利益	54	<b>295</b>	+443.2%
経常利益	57	<b>316</b>	+446.0%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	19	<b>234</b>	—
EBITDA	101	<b>334</b>	+231.6%
ROIC	3.5%	<b>16.9%</b>	—

※ EBITDA…営業利益+減価償却費+のれん償却額  
※ ROIC…税引後営業利益÷(株主資本+有利子負債)

## 🔗 トップインタビュー

グループが重視する経営指標であるEBITDAとROICはそれぞれ334百万円(前年同期比231.6%増)、16.9%(前年同期は3.5%)でした。

**Q** 21年8月クラウド型ワークフローシステム「Gluegent Flow / Flow Plus」と電子契約サービス「電子印鑑GMOサイン」とのサービス連携を発表された件についてお聞かせください。

お客様のDXに対する積極投資の継続を好機として、当社はさらなる事業成長を実現すべく、高付加価値の製品・サービスを提供しております。

今回のサービス連携はその取り組みの1つです。契約の社内承認プロセスから契約締結・管理までをクラウド環境で一気通貫に運用することにより、ハンコ出社の削減とペーパーレス化を推進し、業務生産性の向上に貢献します。

当社は優れた製品・サービスとの連携を通じて、一部作業の自動化やデジタル化にとどまらない、これまでの業務そのものや組織、プロセス、企業文化・風土を変革するお客様のDXを迅速にサポートしてまいります。

**Q** 今後の事業戦略について教えてください。

顧客満足度の向上と当社グループの成長に向けて、「Gluegentシリーズ」を含むSaaS(※1)事業への投資を強化します。SaaS市場規模は、企業におけるリモートワークへの移行やDX推進を背景に年々拡大し、2021年度の市場規模は前年比15.6%増の約1.2兆円と予測する調査結果もあります。

一方、「Gluegentシリーズ」のARR(※2)は2021年6

## 📊 トップインタビュー

月で前年同月と比べて21.7%増加しました。前述したSaaS市場における成長率を上回るスピードでの伸長です。

さらに今後、ユーザーの期待に応える製品開発体制の拡充と、市場における認知度の向上や受注案件の増加に向けたマーケティングの強化を進め、ARRの飛躍的な成長を目指してまいります。

### Q 株主、投資家の皆さまへのメッセージをお願いします。

すでに発表のとおり、上期業績が当初想定を超えて推移していることから2021年度通期の業績予想は、2021年1月公表内容と比較して上方修正をしております。こちらの業績予想を前提に、1株当たり10円の通期配当を予定しています。

今後もミッション実現に向けた投資を推進し、事業基盤と財務基盤のさらなる強化とともに、積極的な株主還元を目指してまいります。これからも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(※1) SaaS: Software as a Serviceの略。ソフトウェアをクラウドサービスとして提供すること。

(※2) ARR: Annual Recurring Revenueの略。月末におけるMRR(サブスクリプション契約等に基づき毎月繰り返し得られる収益の月間合計)を12倍した額。

## 📊 セグメント別の業績

### オープンシステム基盤事業

#### 売上高

5,054百万円

(前年同期比 20.8%増 ▲)

- Red Hat, Inc.関連商品は**好調な増収**
- 主力自社製品の「LifeKeeper」は**順調な増収**

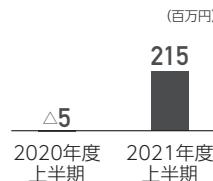


#### セグメント利益

215百万円

(前年同期は5百万円の損失)

- オープンシステム基盤事業の売上高が好調な増収となったことにより**増益**



### アプリケーション事業

#### 売上高

3,024百万円

(前年同期比 2.2%減 ▼)

- 主力自社製品のMFP向けソフトウェア製品および「Gluegentシリーズ」は**好調な増収**
- 金融機関向けシステム開発・構築支援は**減収**

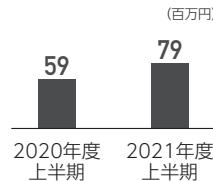


#### セグメント利益

79百万円

(前年同期比 32.7%増 ▲)

- 自社製品の販売が好調に推移したことにより**増益**



## 基本方針と経営指標

### 会社経営の基本方針

当社グループは、「世界中の人々のために、不可能を可能に。」をミッションと定め、イノベーションによって人々の課題を解決し、より良い社会の実現に貢献することを経営の基本方針としています。

### 目標とする経営指標

当社グループは、継続的なキャッシュ・フローの創出のため、EBITDA及びROICを経営指標としています。キャッシュ・フローは、当社グループ成長のための源泉(Driving Force)である「人材」「研究開発」「イノベーションを生み出す企業カルチャー」への投資、及び株主・ステークホルダーへの還元のための原資とし、これらの活動を通じて経営の基本方針の実現を目指します。

## 2021年12月期 第2四半期の取り組み

### 1 既存製品・サービスの強化

- ・「Gluegentシリーズ」を含むSaaS事業の強化
- ・「LifeKeeper」のクラウド対応強化
- ・大学など学校法人へのクラウド導入支援強化

### 1 既存製品・サービスの強化

#### 連結子会社間の合併

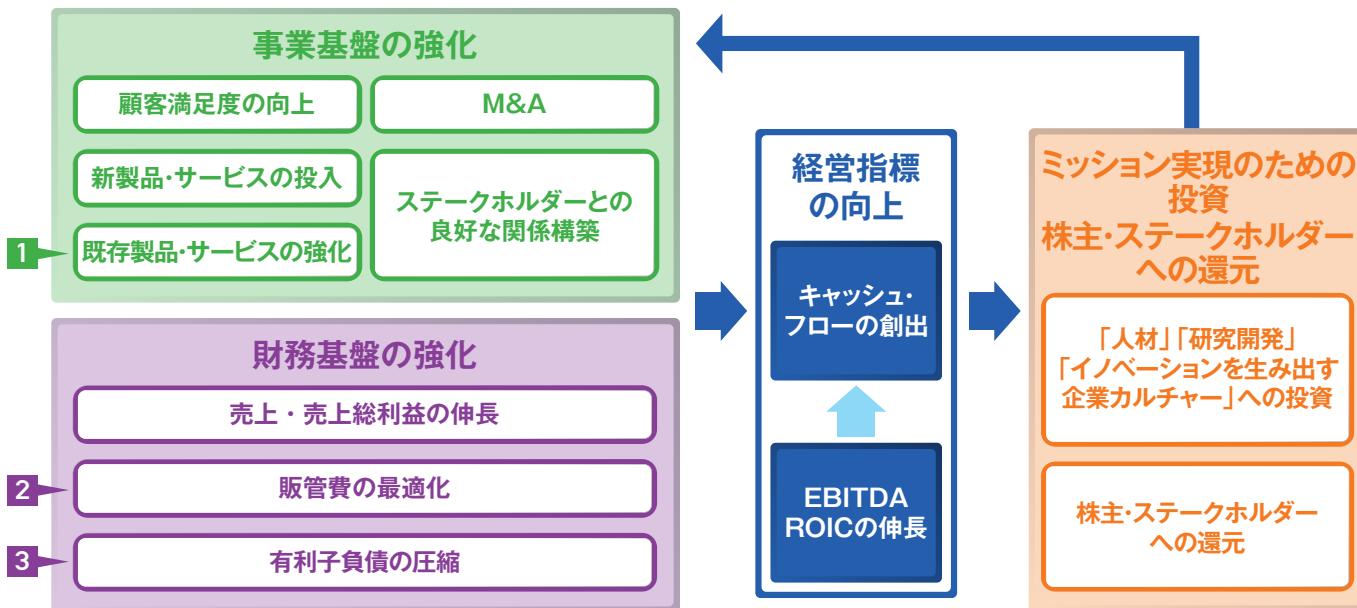
(2021/4/1、サイオステクノロジーにProfit Cubeを合併)

### 2 販管費の最適化

### 3 有利子負債の圧縮

借入金の返済111百万円

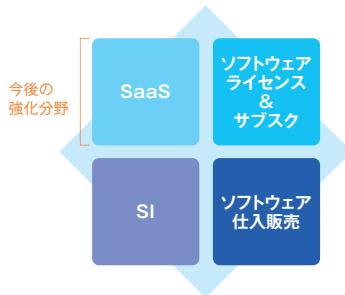
## 当社のミッション実現のために



## ◆ 今後の事業戦略～SaaS事業の強化～

顧客満足度の向上と当社グループの成長のため  
SaaS事業への投資を強化

当社のビジネス領域 (BtoB)



●2021年度(予測)のSaaS市場の規模は約1.2兆円

(出典:富士キメラ総研「2021 クラウドコンピューティングの現状と将来展望 市場編」より引用)

●企業のリモートワーク移行・DX化を背景とし、さらなる市場規模の拡大を想定

BtoB向け既存製品・サービス(SI、ソフトウェア等)を基盤としSaaSに投資を強化する

## ◆ SaaS投資強化第1弾:「Gluegentシリーズ」

「Gluegentシリーズ」は“つながるクラウド”をキーワードとした「クラウド型ワークフローシステム(Gluegent Flow)」「SaaS認証基盤製品(Gluegent Gate)」等

企業のリモートワーク移行・DX化を推進する製品群

### クラウド型ワークフローシステム



### SaaS認証基盤製品



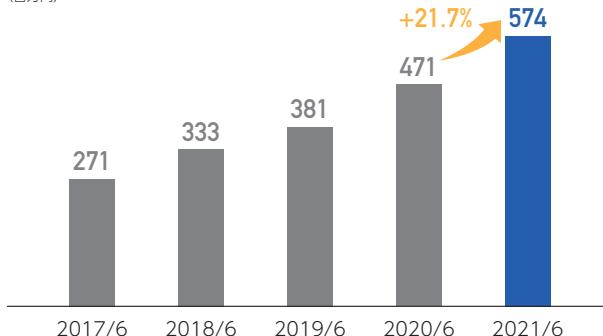
### 用語集

SI	System Integrationの略。コンピューターネットワークの構築、OA化とその利用環境の整備など、情報システム全般を組織的に設計・開発すること。
サブスク(サブスクリプション)	ソフトウェア等の製品・サービスの提供に対して、定期的に定額課金または従量課金するモデル。

## ◆ GluegentシリーズのARR推移

SaaS市場の成長率(※)を上回るスピードで伸長

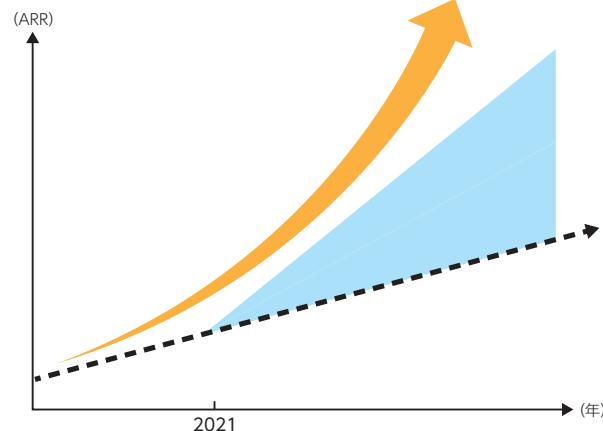
(百万円)



(※)富士キメラ総研の「2021 クラウドコンピューティングの現状と将来展望 市場編」によると、2021年度(予測)のSaaS市場は約1.2兆円(前年比+15.6%)となる見込み。

## ◆ GluegentシリーズのARR成長戦略

2021年を転換点として飛躍的な成長を実現する



### マーケティング強化

- ・マーケティング人材の採用強化
- ・デジタルマーケティングへの投資

市場認知度の向上、  
受注案件の増加

### 開発強化

- ・エンジニアの拡充による開発体制の強化
- ・ユーザーのニーズに合う製品の開発

ユーザーの期待に応える  
製品の適時提供

## 2021年12月期業績予想と進捗

### 11期連続の増収となる 売上高157億円を計画

	2021年 12月期 上半期 実績 (百万円)	2021年 12月期 業績予想 ※	進捗率
売上高	8,079	<b>15,700</b>	51.5%
営業利益	295	<b>480</b>	61.6%
経常利益	316	<b>510</b>	62.0%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	234	<b>390</b>	60.1%
EBITDA	334	<b>560</b>	59.8%
ROIC	16.9%	<b>13.2%</b>	—

※当初の業績予想(2021年1月公表)を超えて推移しているため  
上方修正いたしました。

## 当期の配当予想

### 前期配当(2020年12月期)

1株当たり10円の配当を実施

### 当期配当予想(2021年12月期)

1株当たり10円の配当を予定

## 株式状況/株主メモ

### 株式の状況(2021年6月30日現在)

発行可能株式総数	15,000,000株
発行済株式総数	8,874,400株*
株主数	4,343名

※自己株式205,838株を含む

### 大株主の状況(2021年6月30日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社大塚商会	1,593,300	18.38
パーソルテンプスタッフ株式会社	1,500,000	17.30
喜多エンタープライズ株式会社	920,000	10.61
日商エレクトロニクス株式会社	746,300	8.61
喜多伸夫	210,700	2.43

### 所有者別株式分布状況(2021年6月30日現在)



## 株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	毎年12月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国支店で行っております。 ■住所変更等のお申出先について 株主様の口座のある証券会社にお申出ください。 なお、証券会社等に口座がないため特別口座を開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
公告の方法	電子公告とします。ただし、事故その他のやむを得ない事由によって公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
上場取引所	東証二部
コード番号	3744

## 会社概要 (2021年6月30日現在)

会社名	サイオス株式会社 (英語表記: SIOS Corporation)		
設立	1997年5月23日		
資本金	1,481百万円		
役員	代表取締役社長	喜多伸夫	
	取締役	森田昇	
	取締役	山崎靖之	
	取締役	小林徳太郎	
	取締役(監査等委員)	平松祐樹	
	社外取締役(監査等委員)	古畑克巳	
	社外取締役(監査等委員)	長谷川紘之	

主な子会社	サイオステクノロジー株式会社 (東京都港区)
	SIOS Technology Corp. (California, USA)

## サイオス株式会社

〒106-0047

東京都港区南麻布2-12-3 サイオスビル

TEL:03-6401-5111 (代表)

FAX:03-6401-5112

